

主な血液検査の基準値と内容をご紹介します。

- 1) 旭川赤十字病院検査科での基準値となります。他施設では基準値が異なる場合があります。
- 2) 基準値は健康な成人の95%が当てはまるように設定されています。
- 3) 一般的な検査項目のみを掲載しています。これ以外の特殊な検査に関することは担当医にご相談下さい。



略語	検査項目	基準値	単位	内容
TP	総蛋白	6.7～8.3	g/dl	血清中の蛋白質であるアルブミンとグロブリンの総量です。栄養障害や肝機能障害があると低下します。
Alb	アルブミン	4.0～5.0	g/dl	血清中の蛋白質の中で最も多く、肝臓で合成されます。肝機能障害があると低くなります。
T-Bil	総ビリルビン	0.2～1.3	mg/dl	肝機能の低下や、胆道系の異常があると高くなります。ビリルビンが高くなって白目や皮膚が黄色くなることを黄疸といいます。
D-Bil	直接ビリルビン	0～0.3	mg/dl	ビリルビンの種類の一つで、肝臓に異常があると高くなります。
AST(GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13～33	U/l	肝臓の細胞や、筋肉、赤血球に多く含まれる酵素で、これらの組織が障害されると血液中に増加してきます。
ALT(GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	8～42	U/l	主に肝臓に多く含まれる酵素で、肝臓の細胞が障害を受けると上昇します。
LD	乳酸脱水素酵素	119～229	U/l	体内のいろいろな臓器の障害を反映して上昇します。
ALP	アルカリホスファターゼ	115～359	U/l	体内のいろいろな臓器に含まれる酵素です。胆汁がうっ滞すると上昇してきます。骨の病気でも高くなります。
Che	コリンエステラーゼ	213～501	U/l	肝臓で合成される酵素です。肝機能障害や低栄養で低下します。脂肪肝では逆に上昇します。
γ-GTP	ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ	10～47	U/l	肝臓や胆道系の異常で上昇する酵素です。アルコールの飲み過ぎや薬剤の影響でも上昇します。
NH3	アンモニア	25～75	μmol/l	肝臓の働きが悪くなると、血液中に増加してきます。重症肝疾患や肝硬変の時上昇します。
AMY	アミラーゼ	37～125	U/l	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素の一種で、膵臓に炎症があると血液中に増加してきます。
BUN	尿素窒素	8.0～22.0	mg/dl	尿と共に体外へ排出される成分です。腎機能が低下すると血液中に増加してきます。
Cre	クレアチニン	男:0.61～1.04 女:0.47～0.79	mg/dl	
UA	尿酸	男:3.6～7.0 女:2.3～7.0	mg/dl	プリン体の最終産物で、高くなると痛風、尿路結石の原因になります。
CK	クレアチンキナーゼ	男:60～287 女:45～163	IU/l	筋肉や脳などにある酵素です。これらの障害を反映して上昇してきます。
TG	中性脂肪	30～150	mg/dl	高くなると動脈硬化を促進し、高脂血症や脂肪肝などの原因になります。食後高くなります。
T-cho	総コレステロール	128～220	mg/dl	ホルモンや細胞膜の材料となるものですが、多すぎると動脈硬化を起こす原因になります。
HDL-C	HDLコレステロール	40～96	mg/dl	血液中の余分なコレステロールを取り除く働きをします。動脈硬化を防ぐことから、善玉コレステロールと呼ばれています。
LDL-C	LDLコレステロール	0～140	mg/dl	血管にコレステロールを運ぶ働きをしています。多すぎると動脈硬化をおこすため、悪玉コレステロールと呼ばれています。
CRP	C反応性蛋白	0～0.3	mg/dl	体内で炎症が起きているとき、血液中に増加します。

	略語	検査項目	基準値	単位	内容
生化学・免疫検査	Na	ナトリウム	138～146	mEq/l	体内の水分代謝・浸透圧などの調節をしています。
	K	カリウム	3.6～4.9	mEq/l	
	Cl	クロール	99～119	mEq/l	
	Ca	カルシウム	8.7～10.3	mg/dl	腎不全などで低下し、副甲状腺機能亢進症などで高くなります。
	IP	無機リン	2.4～4.0	mg/dl	腎機能が低下すると高くなります。
	Fe	血清鉄	男: 60～190 女: 50～150	μg/dl	鉄欠乏性貧血で低くなります。
	ferritin	フェリチン	男: 10.0～250.0 女: 5.0～100.0	ng/ml	組織中の鉄と結合している蛋白で、鉄欠乏性貧血で低くなります。強い炎症のときや、鉄分が過剰のときは高くなります。
	FBS	血糖(食前)	70～109	mg/dl	血液中のブドウ糖の値です。高いと糖尿病が疑われます。基準値は空腹時の値です。
	HbA1c	ヘモグロビンA1c-JDS値	4.3～5.8	%	過去1～2か月の血糖の状態で、高いと糖尿病が疑われます。
ヘモグロビンA1c-NGSP値		4.6～6.2			
血球算定検査	WBC	白血球	4.00～9.70	$\times 10^3/\mu l$	血液の成分の一つで異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。体内で炎症が起きているとき高くなります。肝硬変では低下します。
	RBC	赤血球	男: 4.3～5.8	$\times 10^6/\mu l$	血液の主成分で、体の各部の組織細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を運び出す働きをしています。貧血の時低くなります。
			女: 3.8～5.2		
	Hb	血色素量 (ヘモグロビン)	男: 13～18	g/dl	赤血球中の大部分を占めている血色素のことで、酸素を体内の組織に運搬し、二酸化炭素を運び出す働きをしています。貧血の時低くなります。
			女: 11～16		
	Ht	ヘマトクリット	男: 40～52	%	一定量の血液に含まれる赤血球の割合を調べる検査です。低いと貧血が疑われます。
			女: 34～45		
	MCV	平均赤血球容積	83.0～101.0	fl	赤血球の大きさを表します。
	MCH	平均赤血球Hb量	26.0～35.0	pg	赤血球に含まれるヘモグロビンの量を表します。
	MCHC	平均赤血球Hb濃度	31.0～37.0	g/dl	赤血球に含まれるヘモグロビンの濃度を表します。
	PLT	血小板数	130～400	$\times 10^3/\mu l$	血液が固まる時に必要とされる血球成分です。肝硬変になると血液中の血小板が減ってきます。
	Neut(%)	好中球	42.0～67.0	%	白血球の成分で、体内で炎症が起きている時や血液疾患などで高くなります。
	Lymph(%)	リンパ球	23.0～49.0	%	白血球の成分で、体内で炎症が起きている時や血液疾患などで高くなります。
Mono(%)	単球	2.0～9.0	%	白血球の成分で、感染症や血液疾患などで高くなります。	
Eosino(%)	好酸球	1.0～6.0	%	白血球の成分で、アレルギー性疾患や、血液疾患などで高くなります。	
Baso(%)	好塩基球	0～1.0	%	白血球の成分で、じん麻疹や血液疾患などで高くなります。	
凝固系検査	PT時間	プロトロンビン時間	11.0～14.0	秒	血液が凝固するまでの時間(秒)をみます。肝障害があると血液が固まりにくくなるため、時間が延長します。
	PT活性%	プロトロンビン活性	85～120	%	正常血漿を100%とした場合のPTの活性値を表します。血液が固まりにくいと低くなります。